

組合にしか出来ないこと
絶対あるよね!!

国労千葉地本運輸区統合分会
SOGA 班新聞



合分会の中の蘇我運輸区班の解散式を経て、運輸区統

「あいさつ」
班長・鈴木富士夫
新年、明けましておめでとういいます。

謹賀新年

本年もよろしくお願ひします。

として、新しいスタートを切りました。ご協力とご奮闘に感謝申し上げます。

さて、私たちエルダー乗務員は、次の退職日で鉄道業務を完全に卒業することとなり、尚且つ次の仕事にもありますが、殆どは組合員でなくなるという現実も待っています。気持ちが悪んでいくのも仕方ありません。「正月早々、そんなこと口にするな」といった声が身近から聞こえてきそうですが、こつこつ弱気、不安こそ口に出しながら、仲

間同士で共有し合い、次に進むことが大切なのではないでしょうか。今更格好付けたって、しょうがないでしょ。組合をやせ我慢大会みたいなにはいけません。

そんな中でも私たちが出来ること、まだあるはずで、長い組合員人生の中で、会社とぶつかってきたこと、仲間と語り合ったこと、喜びを分かち合ったこと、ストライキをやりきったこと・等々、あの時の情熱を退職と共に家に持ち帰らず、是非職場に置いて

いつてほしいと思います。どんなに時代が変わろうと「職場の中心に労働組合があるべき」だと、私は信じ続けています。各自、国労組合員としての気持ちを、たったひとつでも職場に残していける取り組みをお願いしたいと思います。

若い労組の皆さんには、足元に転がった石ころにこだわってほしいです。その石ころを無視して、ずっと先の目標に突き進んでも、石ころは必ず追いかけてきます。賃金だけが組合運動

ではありませんよ。形だけの「エイエイオー」より、仲間の弱音や不安なこと、ちょっとした疑問、恥ずかしいことこそみんなで共有し合い、そこから運動が作れるようにしていただきたいと思います。「労働組合が職場の中心になる」にはどうしたら良いのか、みんなで考えましょう。

残された時間も限られますが、「職場に労働運動を残す」ことにこだわり、明るい職場風土を取り戻せたらと思います。よろしく哀愁。

☆ オジサンたちの消化試合も否定しませんが、そんな中でも若者たちにもっと頼りにされましょうか!